

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

平成22年3月1日（月）発行

会 報

事 務 局

北海道札幌南高等学校

〒064-8611

札幌市中央区南 1 8 条西 6 丁目

TEL 011-521-2311

FAX 011-521-2316

巻 頭 言

「生徒の自己実現を支援する定通教育を目指して」

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会長

北海道有朋高等学校通信制課程副校長 板 東 眞 一

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会会員の皆様には、日頃より本部会の運営・諸事業の推進に深いご理解と多大なるご尽力をいただき深く感謝申し上げますとともに、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会定通部会をはじめ関係機関より賜りました温かいご指導・ご支援に対しまして、本部会を代表して心より感謝申し上げます。

我が国の高等学校定時制通信制教育は、昭和 22 年 3 月に公布され、翌 23 年 4 月に施行された学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）により設けられた新学校制度として始まりました。定時制課程の発足は新教育制度における根本理念の一つとされ、教育の機会均等の精神を具現したものでした。このことは、「新制高等学校実施の手引き」（昭和 22 年 12 月文部省教育局）にも『新制高等学校の定時制課程の根本精神は一に教育の機会均等にあることを知らなければならない』と述べられているとおりです。また、この「手引き」には次の 5 項目を示し、その設立と運営の基本方針としています。①教育の機会均等（新憲法第 26 条で保障され、これを受けて教育基本法第 3 条には「すべて国民は、等しくその能力に応ずる教育を受ける機会を与えられなければならない」と規定されている。）②教育対象（中学校を卒業して勤務に従事するなど、種々の理由で全日制の高校に進めない青少年男女に対し、新制高等学校の教育を受ける機会を与えることを目的とする。）③地方の要求に適合すること（広くその地方の青少年男女の要求に適合するように設置され、運営されることが大切である。）④学校教育に魅力を持たせること（学校教育そのものに彼等が喜んで出席するよう魅力を持たせ、且つ有用なものにすることが特に必要である。）⑤全日制の課程と同等であること（全日制の教育と卒業資格が同じであるばかりでなく、内容においてもそれに劣らないものでなければならない。）

さらに、従来の学校教育の概念をはるかに超えて、全日制や定時制に進まない者に対し通信の方法による教育を学校教育の一部に認めたことは、画期的なことでした。

様々な教育改革が進められている今日、改めて教育の不易と流行を考えると、60 有余の歳月を経てもなお色褪せることのない定通教育の根本精神を受け継ぎ、北海道における生涯学習の一翼を担い、また老若男女を問わず学ぼうとする生徒一人一人の豊かな自己実現を支援する定通教育を担うものとして、本部会の果たす役割は決して小さくはありません。定通教育の優れた特長を生かし、今後とも生徒のために最善を尽くす所存ですので、会員の皆様のご理解・ご協力をお願いするとともに、皆様のご健勝と更なるご活躍を祈念し巻頭のご挨拶といたします。

「定通教育の現状と諸課題について」

北海道高等学校長協会定通部会長 穴 水 正
北海道有朋高等学校長

日頃より本道の定時制通信制教育の推進にご尽力をいただいております部会所属の各教頭先生方に対しまして、心から敬意を表しますとともにお礼申し上げます。また、北海道教育委員会を始めとする関係諸機関並びに関係各位からの温かいご指導やご支援に対しまして、深く感謝申し上げます。

さて、皆様ご承知のとおり、一昨年、我が国の高等学校定時制通信制教育は昭和23年発足以来60周年を迎えたことから、「定通教育60周年」を祝して定通教育関係4団体が主催する様々な記念事業が行われました。

当初、教育の機会均等という精神のもとで、勤労青少年の学習機会の場としてスタートした定時制通信制教育ですが、時代の移り変わり、社会の変化などによって大きく様変わりしてきました。従前から学んでいる勤労青少年とともに、集団に馴染めない生徒、高校中退者や不登校経験者、外国籍生徒や心身に課題のある生徒、特別支援教育が必要な生徒など、実に多様な生徒が学ぶ場へと変容しています。

このような学習ニーズの変化に加え、生徒減少期を迎えたことなどにより、学校再編を含む改革の波が定通教育においても及んできており、本道においても避けて通れない状況にあります。

ちなみに、定時制・通信制部会に加盟している高校は、平成21年度で道立高校が36校、市町村立高校が14校の計50校となっており、普通科が延べ32校、農業科が7校、工業科が8校、商業科が延べ5校となっております。しかし、今年度中に札幌新川高校と札幌平岸高校が閉課、札幌星園高校が閉校となるため、平成22年度には47校となり、平成23年度にはさらに3校減り44校となる予定です。

その様な中、現在、在籍者数は全国で定時制課程に約11万人、通信制課程に約18万人を数えておりますが、本道におきましては、ここ十年以上減り続けております。平成21年度の在籍者数は、公立高校の定時制と通信制で9,602名、私立高校の通信制で15,408名、計25,010名となっており、経済不況の影響なのか、総計では減少しておりますが定時制課程では増加に転じております。本道における定時制通信制の在籍率は、他の都府県より高い割合を占めており、それだけに定時制通信制教育の特色である柔軟なシステムを活用し、生徒にとってより一層魅力ある教育を提供していくことが必要です。

本道における定通教育の課題については、各都府県の状況とさほど大きな違いはないと考えておりますが、いくつか挙げますと、①弾力的な教育課程の編成・実施、②多様な生徒や多様なニーズに応える定通教育の推進、③単位修得率と卒業率の向上、④キャリア教育の推進による就学・就労指導の充実、⑤保護者との連携の強化などがあります。これらの課題の多くは、容易に解決ができるものではありませんが、各学校を中心として創意工夫を重ねながら、地道に取り組んでいくことが必要と思われれます。

今後とも、各教頭先生方のご支援とご協力をいただきながら、情報ネットワークを形成し、各校が互いに切磋琢磨する中で、一人一人の生徒にとって有意義で、充実した高校生活となるよう取組を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

終わりになりますが、教頭・副校長会定通部会の会員であります皆様方のますますのご活躍を心より祈念申し上げます、巻頭の挨拶に代えさせていただきます。

**平成21年度第60回全国高等学校定時制通信
教頭・副校長協会教育研究協議会長野大会報告
～生徒の実態に応じた教育内容・方法の工夫・改善及び
定時制通信制教育の充実のための方策等について～
北海道高等学校教頭・副校長会定通部会事務局長
北海道札幌南高等学校教頭 田 中 延 和**

日頃より当事務局にご理解とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。これまで年次計画をほぼ当初の予定どおりに遂行できましたのも会員各位のご支援のたまものと感謝申し上げます。

さて、標記大会について次のとおり報告します。

□期 日 平成21年7月30日(木)～7月31日(金)
□会 場 長野市
□参加者 272名（北海道支部より代表3名）

◆全国理事会・総会

主催者を代表して中村 茂全国定時制通信制教頭・副校長協会理事長（東京都立向島商業高等学校副校長）より、開催支部を代表して末松英司長野大会実行委員長（長野県立松本筑摩高等学校教頭）より、挨拶があった。来賓として伊藤和雄（財）石沢奨学会事務局長から挨拶があり、議事後、顧問・名誉会員へ表彰状・感謝状が贈呈された。

◆開会式

太田光春文部科学省初等中等教育局視学官、佐藤弘実厚生労働省長野労働局職業安定部長、石曾根誠一（財）全国高等学校定通教育振興会常務理事、富田正次全国定時制通信制高等学校長会理事長、小林松太郎全国高等学校通信制教育研究会会長、平澤政司長野県教育委員会教育次長より祝辞があった。

◆講演

「天才を育む至福の教育術 ～母が与えてくれた夢を叶える力～」と題して、信濃白炭の炭師（炭焼き職人）で『ボクは炭焼き職人になった』の著者、原伸介氏による講演があった。

◆研究協議会・分科会

◇第1分科会＜教育課程＞

「本校教育課程の現状と課題」栃木県立学悠館高

等学校、「柔軟な学びのシステムをもつ学校の完成を目指して」高知県立大方高等学校

◇第2分科会＜生徒指導＞

「キャリア教育を意識した生徒指導 ～生徒・企業・学校へのアンケートから見えるもの～」静岡県立沼津商業高等学校・富士宮東高等学校・三島北高等学校、「生徒の多様化に応じた指導の在り方について ～定時制生徒の自己実現を目指すキャリア教育の実践～」兵庫県立龍野実業高等学校・兵庫県立龍野北高等学校、「山口県定時制課程における教育相談体制の充実と生徒指導の改善について ～スクールカウンセラー等の活用を中心に」山口県立宇部中央高等学校

◇第3分科会＜管理運営＞

「学校経営計画の策定と運用に関する実態調査」東京都立新宿高等学校、「組織的取組による生徒育成 ～生徒支援をどう進めるか～」熊本県立荒尾高等学校

◇第4分科会＜教育制度・単位制＞

「生涯学習につなげる本校キャリア教育の推進」北海道ニセコ高等学校、「宮城県北初の単位制高校の挑戦 ～特色ある学校づくりを目指して～」宮城県田尻さくら高等学校

◇第5分科会＜通信教育＞

「55年目の統合移転を前に ～全県一校体制の継続的発展に向けて～」島根県立松江北高等学校、

「NHK 高校講座『ベーシック10』を活用した登校型基礎講座の取組」神奈川県立厚木清南高等学校

◆研究協議会・全体会

各分科会の報告者が各研究発表と協議内容について報告し、各助言者が全体講評を行った。

◆閉会式

大塚 正長野大会副実行委員長（長野県立長野吉田高等学校教頭）の開式の辞の後、中村理事長の挨拶があり、次期開催地の中国支部より河上正儀代表（鳥取県立鳥取緑風高等学校教頭）が鳥取大会の準備状況を報告して、全日程が終了した。

本支部を代表して研究発表を担当された北海道ニセコ高等学校 渡辺文貴教頭には、心から感謝申し上げます。

全国高等学校給食研究協議会 理事会・総会及び第60回全国学校 給食研究 協議大会報告

北海道札幌琴似工業高等学校
校長 木 田 清 一

平成 21 年 11 月 25 日に全国高等学校給食研究協議会理事会・総会が滋賀県大津市「滋賀県立武道館」で、26 日・27 日には全国学校給食研究協議大会が滋賀県大津市「大津プリンスホテル」で開催されました。

1 全国高等学校給食研究協議会理事会・総会

①二つの研究協議会の合同開催は、平成 22 年度迄とする。平成 23 年度以降総会は隔年実施とし、8 月に東京で開催する。発表は文科省主催の大会の中「第 8 分科会」ではなく独自に行う。これに伴い、理事会は毎年 12 月末に東京で開催する。記念誌は隔年（大会の実施年）に刊行し、新聞も隔年（大会を実施しない年）に刊行する。②北海道・東北ブロックの役員、全国大会発表地区、「全国高校給食」執筆地区について。平成 21 年度のブロック長は宮城県、副会長は北海道、全国大会発表はなく、「全国高校給食」執筆は岩手県が担当することが確認されました。③常任理事については、平成 22 年度に見直しを行う。見直しを図る際には常任委員会での審議が必要であり、それまでは、常任委員会を存続させることとする。④平成 22 年度の日程は、全国高等学校給食研究協議会理事会・総会が 11 月 10 日（水）に、第 61 回全国学校給食研究協議大会が 11 月 11 日（木）・12 日（金）に香川県高松市で開催されることになりました。

2 第 60 回全国学校給食研究協議大会

「子どもにとっての食を考える」と題して、京都大学大学院教授の伏木 亨氏による、特別講演が行われました。

第 8 分科会（夜間定時制高等学校の給食の在り方）では、京都府立鳥羽高等学校、東京都立葛西南高等学校、熊本県立湧心館高等学校の 3 校から提言発表がありました。研究協議は、夜間定時制高等学校の生徒の実態に応じた学校給食の在り方、夜間定時制高等学校における食育の進め方について、を柱に行われました。この中で、①外部調理方式（民間委託）の増加、②喫食率の減少、③年々厳しくなる給食への補助金、④食育の推進等について関心が集まり、質疑・応答や情報交換がなされました。

全国単位制高等学校長等連絡 研究協議会参加報告

北海道有朋高等学校通信制課程
副校長 板 東 眞 一

平成 21 年 10 月 1 日・2 日の 2 日間、広島県広島市の「広島ガーデンパレス」を会場として開催されました「第 20 回全国単位制高等学校長等連絡研究協議会」の報告をいたします。

本研究協議会はこれまで、全国の単位制高等学校の抱える諸課題とその対応や進取の取組について、単位制を導入している高等学校はいくまでもなく、都道府県の教育関係諸機関や新たに単位制を導入しようとする高等学校へ情報を提供し、学校運営と教育活動の充実発展を図ろうという目的で開催されてきました。

参加者は 180 名を越え、2 日間にわたる熱のこもった会議となりました。

【研究協議Ⅰ（全体会）】10 月 1 日（木）

研究協議 1 日目はパネルディスカッション「多様なニーズに応える単位制高校のあり方」をテーマに掲げ、岡山県立鳥城高等学校長がコーディネーターを務める中、全日制から鳥取県立倉吉西高等学校長、定時制から高知県立大方高等学校長、広島県立広島高等学校長の 3 名の提言から始まり、質疑応答・情報交換が行われました。

鳥取県立倉吉西高等学校長からは平成 11 年度に導入した単位制の課題が説明された後、平成 18 年度以降の学校改革についての実践上の成果と課題が説明されました。「進学重視型」「進路多様型」の枠組みにとらわれない、単位制の特徴を生かした学校経営に関心が集まりました。

【研究協議Ⅱ（分科会）】10 月 2 日（金）

研究協議 2 日目の定時制通信制分科会では、広島県立呉三津田高等学校長がコーディネーターを、滋賀県立大津清陵高等学校長、広島県立芦品まなび学園高等学校長両名がパネリストを務め、「単位制高校における当面する諸課題とその対応」をテーマに 2 部制定通併置校及び 3 部制単置校の教育課程の編成と実施、単位認定や定通併修等について質疑応答と情報交換がなされました。

2 日間の連絡研究協議会を通じ、単位制高校としての新たな経営理念の構築や、北海道における定時制通信制高校間の連携の必要性を改めて感じました。

第60回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会教育研究協議会長野大会参加報告
北海道ニセコ高等学校教頭
渡 辺 文 貴

1 大会日程・協議題等

○期 日 平成 21 年 7 月 30 日（木）～ 31 日（金）

○会 場 長野市 ホテル国際 21

○参加者 272 名

○研究主題 生徒の実態に応じた教育内容・方法の工夫・改善及び定時制通信制教育の充実のための方策等について

○分科会 第 1 「教育課程」

第 2 「生徒指導」

第 3 「管理運営」

第 4 「教育制度・単位制」

第 5 「通信教育」

2 研究協議について

私は、板東眞一定通部会長（有朋副校長）および田中延和事務局長（札南教頭）のお力添えをいただきながら、第 4 分科会「教育制度・単位制」の発表者として参加してきました。分科会テーマは①生涯学習との関わりとその将来像 ②単位制の課題とその改善であり、それぞれのテーマに沿って次の 2 つの発表が行われました。

①「生涯学習につなげる本校キャリア教育の推進」

北海道ニセコ高等学校 渡辺 文貴

②「宮城県北初の単位制高校の挑戦

～特色ある学校づくりを目指して～

宮城県田尻さくら高校 三浦 孝洋 教頭

□二部制・単位制の教育システムとその成果について発表がありました

以下、私が行った発表について報告させていただきます。

研究テーマの①について、学校の教育活動をどのように生涯学習と関連づけさせるかを考えた場合、本校生徒が卒業時にどのように育っていてほしいか、またその先に何を志向した存在になってほしいかが学校全体として持つべきイメージです。その具現化に向けた実践を 5 つの柱で発表しました。

(1)進路意識と職業観・勤労観の育成

生徒個々の興味関心を引き出すために、1～3 年まで系統的に行っているキャリア学習の紹介

□1 年…・農業・観光両コースの見学実習

・コースオリエンテーション

・各種進路講話、職業人講話

・コミュニケーション能力開発講座

□2 年…・大学キャンパスツアー

・農業／観光集中講座

・インターンシップ 8 日間

・国際交流（韓国見学旅行）

・キャリアカウンセリング（個人）

□3 年…・進路講話、進路面談、履歴書指導

・専門学校説明会

・インターンシップ 8 日間（希望職種）

(2)社会的有用感・自己肯定感の創出

社会活動参加の推進により、生涯にわたる学習姿勢や社会貢献の態度育成を目指しています。

□生徒が参加する地域活動

□生徒・学校が地域へ提供する学習機会

(3)課題解決型学習～プロジェクト学習

学習持久力と課題発見能力育成のため、4 領域に分けて 1 年を通した研究テーマを設定しています。

□農業工学班 □自然環境班 □生活文化班

□地域観光班

(4)検定・資格取得による自己啓発

半額町費支援による資格取得推進で就職・進学に向けたキャリアアップを目指します。

(5)学校外学修による単位認定

「学習」の範囲を大きくとらえさせるとともに、学校外での努力を単位として認め、高校時代だけでは終わらない、生涯を通した学習意欲の醸成を図ります。

□技能審査によるもの

□ボランティアに関わるもの

3 今後に向けて

定通高校には様々な学習歴、進路意識、人間関係歴等を持った生徒が入学し、幅広い学力層への対応や生きる意欲を喚起する取組が求められるなど、教育本来の姿があります。本大会では 5 つの分科会で協議されていますが、学校現場は全てを網羅しながら、かつそれらを整理系統立てて「成果」を生むための取組にしなければなりません。数値的な成果を出すことはなかなか困難ですが、私達は学校の所属職員がそれを感じられる学校運営に努めなければならないことを再認識する大会参加となりました。

**第60回全国高等学校定時制通信制
教育振興会大会・研究協議会〈宮崎大会〉
参加報告**

北海道有朋高等学校教頭
牧 野 敏

平成21年8月6日～7日の2日間にわたり宮崎市宮崎観光ホテルを会場として開催されました「第60回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会・研究協議会」の報告をします。今年は「『太陽と緑の国・みやざき』から、定通教育の充実と発展を発信する」を大会テーマに、「多様なニーズに対応した定通教育の在り方と振興会の役割について」を研究協議テーマとして、開催されました。

【大会第1日目】8月6日（木）

平成20年度決算、21年度予算等すべての議案について承認されました。今年度の全振役員については原案通り、和田敬友会長は理事、穴水正理事長は評議員として、それぞれ承認されました。また北海道が主管する平成23年度第62回大会を含む平成29年度までの全国大会開催予定地区と新公益法人移行に係る申請等について説明があり、全会一致で承認されました。

午後からの開会式では島村宜伸会長に代わり相馬鋁一副会長の主催者挨拶があり、続いて開催県代表の東国原英夫宮崎県知事の挨拶に会場は一段と沸き上がりました。また功労者表彰がしめやかに行われ、北海道からは佐野和夫星園高校教育振興会理事長、中野芳治元当別高校教育振興会会長、志摩正平岸高校教育振興会会長、久野政人元道定通振興会理事長の四名が表彰されました。続いて若山牧水記念文学館館長、伊藤一彦氏による「あくがれに生きた歌人 若山牧水」と題した講演が行われ、定時制高校教員時代の経験談を織り交ぜた牧水の短歌への熱い思いが語られました。

【大会第2日目】8月7日（金）

今年度の研究協議は従来の分科会制を廃し、四つの研究発表と協議がすべて同一会場で実施されました。各県の発表はいずれも時代に即した喫緊の内容であり、文部科学省の永井克昇視学官の指導助言も新学習指導要領を踏まえたものでした。

最後に大会宣言文が、高らかに朗読され、大きな盛り上がりの中で第60回記念宮崎大会は幕を閉じました。

**第57回全国高等学校定時制通信制
生徒生活体験発表大会参加報告**

北海道函館工業高等学校教頭
伊 藤 正 法

11月22日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて第57回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会が開催され、本校4年生機械科佐藤療君が北海道代表として出場した。

渡島地区大会では、3校6名が出場。全道大会では各地区代表の10名が出場し、佐藤君はいずれも最優秀賞で、北海道代表となり全国大会出場が決まった。

演題は「支えられて今がある、だから・・・」として、過去を振り返ったからこそ見えてきた今の素直な思いを伝えた。

彼は小学3年生の時にクモ膜下出血で母親を失い、生活の変化から小・中学校で不登校気味になった。しかし、本校入学後に始めたアルバイトや生徒会執行部の活動を通じ「会話をしないと相手の思っていることや自分の思いが伝わらない。人付き合いは大切なものなんだ」と実感した。これらの経験が、物事に対し前向きに考えられる努力できるようになり、幾多の困難を乗り越えることが出来た。このようなことから「多くの経験があり、たくさんの人たちがいたからこそ、今の自分がある」と振り返る。

「今度は自分が周囲の人の役に立ちたい」と考えている。

全国大会では、午前の部に各都道府県の代表58名が5会場に分かれて発表し、各会場の上位2名が午後の全体発表会に選ばれる。ここで佐藤君は「全国大会でも聞いてくれる人に共感してもらえれば」と挑んだが、多くの発表者のすばらしい発表内容・発表態度に圧倒され、今までの成果を見せることが出来ず、大会会長奨励賞を受賞することに止まった。

彼の語り口は淡々として心のままに訴える構成になっており、地区大会では落ち着いた態度で多くの人たちに深い感動と共感を与えた。

佐藤君が今回出場した、地区から全国大会までを通して多くの出場者の発表を聞き、いろいろな経験を積んだ人たちがいるのが解ったことは、今まで以上に「人に優しく自分の存在価値を高める」こととなったと思います。

第53回北海道高等学校定時制通信制 生徒生活体験発表大会報告

北海道札幌西高等学校教頭

佐 藤 明

第53回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会は札幌市教育文化会館において、平成21年10月22日（木）に開催されました。例年同様、北海道・北海道教育委員会・札幌市教育委員会等11団体から講演・助成等のご支援をいただき全道から10名の代表生徒を迎えて大会を開催することができました。大会運営の当番校として関係の皆様にご心よりお礼申し上げます。

今年度も、昨年同様全道8地区と通信制から計11名の代表が集う予定でしたが空知地区代表北海道天売高等学校が悪天候によるフェリーの事情により参加できなかったことは非常に残念なことでありました。このことによって10名の参加者で行われました。その中で、貴重な体験と様々な困難を乗り越えて一生懸命に生きようとする強い意志が発表されました。どの発表もレベルが高く、審査員の先生方も大変悩みながら採点されていたことが印象的でした。今年もご出席いただいた高橋教育長様をはじめ、多数のご来賓の皆様方からも、定時制・通信制で学ぶ生徒達の真摯な姿勢にお褒めの言葉をいただきました。最優秀賞の佐藤君と優秀賞の菅谷さんが全国大会に出場しました。全国から選ばれた58名が競い合った中で、菅谷さんは「厚生労働省職業能力開発局長賞」を受賞したことからも、今年の大会がいかに素晴らしいものであったかご想像いただけたと思います。

また、アトラクションとして出演していただいた北海道札幌月寒高等学校マンドリン部鈴木良伸先生・部員生徒の皆様にご素晴らしい演奏を披露していただき、大会を盛り上げていただきました。

なお、発表内容については、大会集録「輝く青春（第43集）」に全て掲載されております。是非ご一読いただくことを願っております。本大会が今後とも益々発展し、定通教育の充実に寄与することを祈念して報告いたします。

審査結果

○最優秀賞 函館工業高等学校4年 佐藤 燎
「支えられて今がある、だから」

○優秀賞 千歳高等学校3年 菅谷 未来
「この学校で良かった」

○優秀賞 札幌琴似工業高等学校4年 小野 裕樹
「シャトルを追いかけて」

○奨励賞 稚内高等学校4年 鈴木 順也
「等身大の僕」

○奨励賞 帯広農業高等学校3年 岩佐あゆみ
「人の役に立ちたい。喜んでもらいたい。祖母の死から学んだこと」

○奨励賞 真狩高等学校3年 藤田 真
「農家宣言～受け継ぐ意志～」



調査研究部からの報告

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会調査研究部長
市立札幌大通高等学校教頭 鈴木 恵 一

平成 21 年度の研究テーマは「定時制・通信制課程における特別支援教育の現状と課題」です。特別支援教育は、平成 19 年 4 月 1 日より改正学校教育法により制度としてスタートし、幼・小・中・高のすべての学校において適切な教育を通じて一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行うことになりました。義務教育段階においては、先進的な取組事例が蓄積されておりますが、高等学校においては、実際の取組はもとより、特別支援教育コーディネーターの研修等も不十分であり、まだ「始まったばかり」という感があります。特に、定時制・通信制課程の生徒に見られる学習の遅れや問題行動のなかには、発達障がいがある原因であることが少なくない、という各種の事例報告もよく聞かれるようになりました。

こうした状況を踏まえ、調査研究部定通部会では、北海道の定時制・通信制課程における特別支援教育の実態把握から始めることにしました。具体的には、次の三点についてデータを収集し分析しました。

(1) 特別支援委員会の構成と運営等 (2) 支援対象となる生徒の数、診断名や支援の内容 (3) 記述式による自校の成果と課題 (詳細については、調査研究報告書をご参照ください)

今回の調査により、各校における実態が浮き彫りとなりましたが、特別支援に係る関係機関（医療機関、支援団体等）との連携については、都市部と地方における地域間格差がそのまま学校体制に影響しており、行政的な支援を求める多数のご意見も頂きました。現在、道内では、札幌北高等学校定時制課程が文部科学省の「平成 21 年度高等学校における発達障害支援モデル事業」の指定を受け、実践的な取組を重ねております。また、市立札幌大通高等学校は札幌市教育委員会が指定を受けた文部科学省の「平成 21 年度問題を抱える子どもの支援事業」のモデル校としてその取組を始めております。今後もこの分野の継続的な調査研究を進め、情報を共有することが望まれます。

北海道高等学校定時制通信制 体育大会報告

北海道高等学校定時制通信制体育連盟事務局長
市立札幌大通高等学校教頭 鈴木 恵 一

平成 21 年度の事業につきましては、関係各位のご理解とご支援により、すべて滞りなく終了することができました。特に、各支部、専門部のご協力により、春の支部予選から北海道大会、秋季新人戦まで円滑に運営していただき、心より感謝申し上げます。

大会成績につきましては、北海道大会はもとより全国大会においても本道選手の活躍はめざましく、なかでも全国大会では、バドミントン男子の草島選手(有朋高通信)が達成した全国優勝3連覇は正に偉業といえます。その他、バドミントン男子団体(有朋高通信)が第3位、バドミントン女子の田淵選手(滝川高)が第3位、柔道男子重量級の赤沢選手(有朋高単位)が準優勝、バスケットボール男子(釧路工業)が準優勝、陸上女子 3,000m 白石選手(札幌星園高昼)が優勝でした。

紙面の関係で、全道・全国大会の詳細は掲載いたしません。北海道代表選手・チームがどの競技においても全国の上位に食い込んでいる状況や接戦の末の惜敗が多いことを分析してみますと、道産子選手の質の高さが窺えます。一方、定時制・通信制の大会は地区予選から全国大会まで、記録や勝敗にこだわりのだけのスポーツの祭典ではなく、その特性から、高齢の方や日頃の困難な環境から満足にいく練習ができずに大会当日を迎えている生徒がたくさんいるのが現状です。こうした状況を踏まえ、私たちは皆様と手を携えながら、今後も定時制・通信制高等学校における体育・スポーツの振興と、広くスポーツ実践の機会とより充実した環境の提供をめざさなければなりません。

事務局は、市立札幌大通高等学校に永続的に固定化されました。今後とも、これまでと変わらぬご理解とご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

★地区だより

渡島地区定時制教育の活動状況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

渡島地区長

北海道函館中部高等学校教頭 井 上 俊 一

(1)渡島地区の状況

渡島地区は、函館中部高校、函館工業高校、函館商業高校の3校の定時制課程で成り立っています。

平成21年度の地区事業は、6月6日(土)定体連地区大会、9月11日(金)生活体験発表地区大会、10月27日(火)3校合同薬物乱用防止講話などが取り組まれている。



次に、各高校の教育活動を報告する。

(2)函館中部高等学校

本校の夜間定時制課程は、大正12年私立函館中等夜学校として、創立以来86年を迎え、卒業生は4,510名を数える。多くの卒業生が函館市をはじめ、各地域・各界で活躍しており、現在各学年2学級で全校生徒197名が学んでいる。

「働きながら学ぶ」という夜間定時制の本来の目的から、現在では中学校時代に不登校傾向のあった生徒や他校からの進路変更の生徒など、の適性・能力や目的意識の多様化した生徒を受け入れており、年度内には各中学校、適応指導教室やフリースクールなどを回って学校生活や生徒の状況などをPRしている。

本年度より2学期制や高校卒業程度認定試験の単位認定などを取り入れているが、一層の履修形態や単位取得の弾力化を進めたいと考えている。

(3)函館商業高等学校

本校は、明治36年に開設され、今年で107年の歴史をもつ定時制商業高校である。その後、幾多の変遷を繰り返し、平成4年に商業科から事務情報科となり現在に至っている。教育課程運用の弾力化に積極的に取り組み、2学期制の導入・技能審査による

単位認定などを取り入れ、検定取得等を通じ生徒の勉学への意欲を高めている。

多様化した生徒が入学してくる中で、生徒一人ひとりを大切に、「教育相談」に力を入れ取り組んでいる。また、社会に貢献できる人材「職に就き、働く」ことができる社会人の育成を重視し、人材育成の教育を推進している。



(写真は見学
旅行広島)

(4)函館工業高等学校

本校は明治44年に設立し、今年度で98年目(平成23年度に創立100年記念式典)を迎える道内の工業高校としては古い歴史と伝統を持つ学校の一つである。設置学科は機械科、電気科、建築科の3つの基幹学科を有し、道南唯一の定時制課程における工業教育の要として、地域から期待されている。定時制はこれまでに5,223名の卒業生が巣立ち、地元はもとより全国各地の産業界で活躍している。

生徒たちは、明るく真面目に学習しており、放課後の資格取得や部活動に励み、自分の目標を定め卒業を目指して活気ある学校生活を送っている。特に、サッカー部は3年連続全国大会に出場を果たした。過去2年間は1回戦敗退であったが、今年度はベスト8の成績を収めた。

本校では「楽しい学校を目指そう!」と全職員が同じ目線の教育活動を実践している。特に、生徒の登・下校時には玄関



で生徒一人ひとりに声掛けを行い、生徒たちの話に耳を傾けるなど、生徒との心のつながりを大切にしている。授業においては、生徒の個性を大切に「わかる授業」のために授業形態や指導内容・指導方法の工夫・改善に取り組んでおり、こうした実践により退学者が減少するなど成果が出ている。

★地区だより

胆振地区定時制教育の活動状況
北海道高等学校教頭・副校長会定通部会
胆振地区長
北海道室蘭栄高等学校教頭 石戸谷 亮

胆振地区の概況

胆振地区の定通部会は室蘭栄高校・室蘭工業高校・苫小牧東高校・苫小牧工業高校の4校で運営されている。平成21年度の地区事業として、6月21日（日）に定体連地区大会が室蘭栄高校（卓球）、苫小牧東高校（バドミントン）、苫小牧工業高校（バスケットボール）を当番校としてそれぞれ開催された。また、9月17日（木）には、生活体験発表胆振地区大会が室蘭栄高校を当番校として開催された。

次に各学校の教育活動について報告する。

（１）室蘭栄高等学校

本校は、大正6年創立の全日制課程に昭和23年併設されて今日に至る、普通科の夜間定時制課程である。この間、室蘭の戦後復興や基幹産業である鉄鋼業を支えた勤労青年の学ぶ場としてその役割を果たし、昨今は生涯学習の見地から、多様化する生徒の学びの場として、更には有朋高校の協力校として幅広い教育活動を実践し、2300名に及ぶ卒業生を輩出してきた。現在は62名が在籍し、個々の進路目標達成のため、高校生活を送っている。

学習内容は少人数指導を軸に基礎基本の習得から進路に応じた個別指導、各種検定受検による資格取得を目指すものまで多岐にわたる。また、特別活動では、今年度、卓球部が個人戦で全国大会、バドミントン部は全道大会出場、生活体験発表会での全道大会出場など少人数ではあるがそれぞれの部門で力を発揮している。

（２）室蘭工業高等学校

本校は、昭和28年全日制課程に併置された夜間定時制である。最初、金属工作科1間口でスタートしたが、昭和32年機械科に転科。現在に至るまで1間口の定時制として848名の生徒が卒業し全国各地にて活躍している。しかし、少子化のあおりを受け、平成20年度以降募集停止が決定され、平成23年3月をもって閉課することになっている。現在、3年生3名、4年生2名の計5名が在籍し、家族的な学校としてきめ細かな指導の徹底を図ると同時に、少人数の利点を生かし、以下の取組を行っている。学習においては、少人数指導・個別指導や実験・実習を重視し、個に応じた手厚い指導を展開している。平成20年度には道德教育について先進的に取り組み、全体計画を作成し、北海道教育課程研究集会において提言を行った。また、特別支援教育にも力を入れ、コーディネーター委員会を機能させ、パートナーティーチャーを活用し、より良い支援の在り方の研究を進めている。最後に、残り僅かな定時制であるが、在籍している生徒が有意義な学校生活

を送れるよう今後も教職員一丸となって教育活動に取り組んでいきたい。

（３）苫小牧東高等学校

本校定時制は、昭和23年に当時の北海道立苫小牧高等学校に併置され、これまでに1988名の卒業生を社会に輩出しています。地域の定時制課程普通科として、苫小牧市内はもとより近隣の町村も含めた幅広い地域の要望に応じています。また、北海道有朋高等学校の協力校、苫小牧高等商業学校との技能連携校でもあり、地域と連携しながら相互理解を一層深めています。生徒数は、現在80名余であり、生徒の4割が就労しています。進路状況は、例年、私立大学への進学が1～2名、専門学校が4～5名で、就職は正規採用が4～5名、アルバイトの継続が10名前後となっています。社会に適應する望ましい人間の育成を教育目標としており、様々なハンディを負う生徒の問題行動の解決を図り、基礎学力をつけ社会に送り出しています。また、その実践のために生徒と教員との信頼関係の構築を特に大切にしています。

（４）苫小牧工業高等学校

本校は、昭和28年、大正12年創立の全日制に併置された夜間定時制課程である。当初は機械科、30年に建築科、40年には電気科が設置され、3間口3学科となった。昭和60年、出願者の減少により電気科を閉科、現在は、機械科、建築科となった。工業都市苫小牧で「働きながら学ぶ」夜間定時制高校として、地域に根ざした教育活動を実践している。特色ある教育活動として、高校卒業者を対象に専門科目のみの履修で、最短2年間で卒業できる専修生制度を、昭和56年度からスタートさせた。また、平成15年度からは、希望する教科・科目のみ学習できる一部科目履修制度を開始、「地域の学び」に依っている。現在では、勤労学生に加え、学習環境を変えて学ぼうとする多様な生徒が学ぶ場でもある。運動系の部活動が盛んで、全ての部活動が全道大会に出場し、特に、バスケットボール、バレーボール、軟式野球は、北海道代表として全国大会への出場経験がある。

平成21年度全国定時制通信制軟式野球大会（8月）



★地区だより

網走地区定時制教育の活動状況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

網走地区長

北海道遠軽高等学校教頭 山 本 英 人

＝網走地区の概況＝

網走地区は北見北斗高校、網走南ヶ丘高校、東藻琴高校、北見仁頃高校そして遠軽高校の五校あり、定時制教育研究協議会、定体連大会、生活体験発表大会を開催している。

（１）北見北斗高等学校

本校は、昭和23年、当時の北見高等学校、現在の北見北斗高等学校に併置する形で、定時制課程・通信制課程が置かれたことにはじまる、今年で開校61年を迎える夜間定時制高校である。通信教育では、現在、有朋高校の通信制課程一般生と有朋高校の技能連携施設である北見商科高等専修学校（技能連携生）の協力校であり、また、道内に4校あるNHK学園高等学校の協力校でもある。定時制としては、昭和57年に入学定員がそれまでの2間口から現在の1間口になり、卒業生総数は平成21年3月で2232名となった。



近年、教育課程の弾力化を進め、有朋高校通信制との定通併修による三修制の導入、技能審査による単位の認定、一部科目履修生の受け入れ等、教務内規の改善をはかっ

てきた。

本校では、生徒との個人面談や教員間の情報交換の機会を数多く設け、生徒理解に努めている。また、学校生活を楽しく潤いのあるものにするため、生徒会を中心として、生徒一人ひとりに活躍の場を与えるような学校行事を多く取り入れている。平成20年度から行っている「（夜の）運動会」はその一例である。（写真）

（２）網走南ヶ丘高等学校

本校は、昭和23年に定時制普通科が設置された。平成17年度には管内で初めて三年次卒業制度を導入し、平成19年度から三修制の卒業生を50%以上輩出している。導入した制度の学習形態は、大きく4年生コースと三修制コースに分類され、更に三修制コース内には、始業前授業0時間目を受講するタイプと就業し単位を修得する実務代替のタイプとに分かれている。多くの生徒は0時間タイプを選択している。学習内容の特色としては、ボランティア活動・インターシップの単位認定、学校外の学修の単位を認定して生徒の自主性を引き出す教育活動を推進している。特に、ボランティア活動は地域関係機関と密接に連携し非常に効果をあげている。また、地域住民を対象に生涯学習の観点から三修制の導入と同じ時期に一部科目履修を実施し地域からのニーズは高い。これからも地域とともに歩む北海道網走南ヶ丘高等学校定時制課程である。

（３）東藻琴高等学校

校訓「耕心」のもと生徒89名が学んでおり、寮を持つ町立昼間定時制の農業高校（生産科学科）である。特色ある食・農の実習と地域と深く連携した



実学実践を重視した活動は、生徒の豊かな人間性の育成と地域産業の一翼を担っている。ツツジ等の花木生産、白樺ドリンク・ハムなどの食品製造、バイオ技術導入による野菜栽培、熊本県での農

家委託実習などに取り組むとともに、地域行事への積極的参加、生産物の販売実習、幼稚園・小学校・養護学校交流、地域の花壇製造、各種開放講座実施など地域に学ぶ生きた教育活動を展開している。

（４）北見仁頃高等学校

閉校まであと2年と迫った本校は、2年生6名、3年生4名の合計10名の生徒が在籍している。今年度は、地域の人材や食材等の教育資源を大いに活用した取組の実践に努めた。その具体的実践を紹介する。

5月には、旬の「ふき取り」を実施した。仁頃神社裏の土手に入り、生徒・保護者・教職員でふきを刈り取り、茹でて調理した。多くの収量を得て老人ホームの入所者に食べてもらう予定だったが、当日降雨であったことや春先の天候不順で、収量が少なかったため、生徒が家庭に持ち帰るのみの形をとった。

6月には学校から400M離れた公園に薄荷（ハッカ）の苗と園庭の花苗を移植をした。秋には薄荷が実り、収穫作業もお手伝いした。

11月には、地域住民とともに地元で栽培されたそば粉を用い、「そば打ち」体験学習を行った。

また、今年は多くの講演を聴く機会に恵まれた。「交通安全講話」・「消費生活セミナー」・「絵本と読書」・「薬物乱用教室」・「メンタルヘルスセミナー及び特別な支援を要する生徒対応」など生徒とともに学ぶことの多い内容であった。

（５）遠軽高等学校

本校は昭和25年の設置以来、遠軽・紋別地区の勤労青少年の教育機関としての役割を担ってきた夜間定時制高校である。生徒在籍数は41名。

この数年は進路指導に重点を置き、様々な取組を行っている。その一つとして基礎・基本の定着に向けた継続的な学習活動への取組がある。そしてその学習成果の確認として年間6回の基礎学力テストを実施し成果を上げている。また、長期休業中を利用した進路講習は進学や就職に向けた生徒の充実した学習の場として定着してきた。一方、町内施設の清掃活動や赤い羽根街頭募金などの心のふれあいを大切にしたボランティア活動も全校あげて取り組むとともに近隣の養護施設との交流、開放講座の実施など地域との結びつきを大切にした教育活動を展開している。

第41回北海道高等学校給食研究協議会 北海道大会報告

北海道札幌琴似工業高等学校教頭
一色博介

第41回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会は、平成21年10月6日（木）、北海道札幌琴似工業高等学校で開催されました。

大会は、「意欲的な生活態度を育む学校給食の在り方」をテーマとし、ご来賓に北海道教育庁学校教育局学校安全・健康課主幹影山茂樹様、財団法人北海道学校給食会公益活動推進室参与蓬田義信様、助言者として北海道教育庁学校教育局学校安全・健康課主査本間恵美子様、中田公德様のご臨席を賜り、全道26校から46名の関係者が参加しました。

講演では、北ガスッキングスクール統括主任講師で管理栄養士の坂井美恵子氏が『すぐに役立つところからだにやさしい食事(食は生きる上の基本)ーアンチエイジングの視点から』と題して、日本の食生活の変化と食をめぐる現状について話されました。アンチエイジングとは「抗加齢」のこと、人は若返ることはできないが、老化を防止できると説明されていました。また、加齢防止のためには、紫外線予防が最も重要で、抗酸化作用のある野菜・果実の摂取等に努めることが大切と呼びかけました。

午後は研究協議が行われ、北海道滝川高等学校の千葉茂男教頭から『給食実施の現状と課題』と題して、滝川高校並びに岩見沢東高校で実施されたアンケート調査に基づき、給食の現状や問題点、課題等について発表していただきました。その中で、「給食クイズ」が大きな話題となりました。

研究協議では、参加した各校の学校給食の現状や生徒の利用状況、各校が抱えている問題点や課題等が討議されました。昨年からの民間委託となった有朋高校の牧野教頭からは『学校給食アンケート』に基づく発表があり、給食委員会や給食便り等で、調理員とのコミュニケーションを図りながら、円滑な運営に努めていることが報告されました。

最後に、学校安全・健康課主査本間恵美子様から、高校における食育の在り方や教職員の共通理解による学校全体での食の指導の取組、「早寝、早起き、朝ご飯」で1日のリズムを作ることの大切さ等についてのご助言をいただくとともに、委託調理場における献立表の情報提供がありました。

退職のご挨拶

北海道札幌平岸高等学校教頭
布施俊一

定通教頭会には6年間お世話になりました。星園高等学校では、全道定体連・石狩定体連・石狩振興会の事務局を担当し、特に定体連の事務局ローテーション化では教頭会の皆様のご協力をいただきました。平岸高等学校では、巡り巡って全道定体連の事務局を再度担当することになり、一人で苦笑いしました。業務を遂行できたのも皆様のお力添えのおかげと感謝申し上げ、定通教頭・副校長会のますますのご発展を祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

定通教育振興の更なる発展を望む

北海道札幌新川高等学校教頭
松浦文生

全道的に定時制課程が減少する中で、石狩地区も平成20年度17校22課程（7千名）から23年度には12校15課程となる。このような中で、石狩地区定通教育振興会事務局を3年間させていただいた。定通教育振興は過去のような熱気とその役割の認識に欠ける部分はあるものの、不易への共通理解と社会状況に対応した在り方の論議により、教育振興会が担うべき新たな姿が具現化され则认为。退職にあたり、「定通高校減による定通教育振興の先細り」が起きないための取組が全道各地で行なわれるよう望んで止まない。



平成 22 年度定通部会 事業計画（案）

● 北海道の事業計画

No.	事業計画	期 日	会 場
1	◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会 総会・研究協議会	平成 22 年 5月18日 (火)	室 蘭 市
2	◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会	5月18日 (火)	室 蘭 市
3	◆北海道高等学校教頭・副校長会 総会第 1 回研究協議会	5月19日 (水) ～20日 (木)	室 蘭 市
4	◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会 総会・研究協議会	6月 7日 (月)	札 幌 市
5	◆第 42 回北海道高等学校給食研究協議会 北海道大会	10月 7日 (木)	札 幌 市
6	◆第 54 回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会	10月15日 (金)	札 幌 市
7	◆平成 22 年度調査研究報告書発行	平成 23 年 3月上旬	

● 全国の事業計画

No.	事業計画	期 日	会 場
1	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会校長・教頭研究協議会 (地区通研大会)	平成 22 年 5月10日(月) ～11日(火)	盛 岡 市
2	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会第 1 回全国常任理事研究協議会・正副理事長支部長研究協議会	6月 4日 (金)	東 京 都
3	◆第 62 回全国高等学校通信制教育研究協議会 (全通研大会)	6月17日 (木) ～18日 (金)	岡 山 市
4	◆第 61 回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会総会・教育研究協議会 (全教協大会)	7月29日 (木) ～30日 (金)	鳥 取 市
5	◆第 61 回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会 (全振大会)	8月 5日 (木) ～6日 (金)	新 潟 市
6	◆第 21 回全国単位制高等学校長等連絡研究協議会	10月 7日 (木) ～8日 (金)	山 形 市
7	◆第 45 回全国高等学校給食研究協議会・第 61 回全国学校給食研究協議大会 (全給研大会)	11月10日 (水) ～12日 (金)	高 松 市
8	◆第 58 回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会	11月21日 (日)	東 京 都
9	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会教頭・副校長研究協議会	12月 2日 (木) ～3日 (金)	札 幌 市
10	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会第 2 回全国常任理事研究協議会・正副理事長支部長研究協議会	12月10日 (金)	東 京 都

編 集 後 記

今年度より、教頭・副校長会の発足に合わせ、当会報紙も名称を変更しWEBページにて発行となりました。改善点等、次年度以降の参考にしたいと考えておりますので、ご意見をお聞かせください。

編集発行にあたり、ご校務ご多用の中ご執筆いただいた校長協会定通部会長の穴水校長先生、給食研究協議会長の木田校長先生をはじめ、全道の副校長・教頭先生、そしてWEBページ版化にあたり北海道有朋高校の諸先生方に心より感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝を祈念いたします。

[恵庭南高等学校 吉野 光]